

日本薬学会第125年会ランチョンセミナー

**ポストゲノムの創薬・医療における  
Moderate-Throughput Screeningツールの役割  
～Bio-Plexサスペンションアレイを例に～**

日時： 平成17年3月30日（水） 12:30～13:30  
会場： 東京ビッグサイト6F 607+608 (G会場)

サスペンションアレイは、その名の通り溶液中に懸濁（suspend）した蛍光マイクロビーズを使用したアレイシステムで、従来のELISA法やウェスタンブロット法よりもハイスループットでありながら、マイクロアレイのようなハイスループットスクリーニング（HTS）よりも一桁低いオーダー（ $\sim 10^2$ ）で生体分子マーカーの同時測定を行うことが可能です。

この、いわば“Moderateな”スクリーニングは、従来法とHTSの両者を補完する技術として、創薬、臨床での需要が近年飛躍的に伸びています。特定のアプリケーションに即したタンパク質ファミリーの組み合わせで自由にアレイを作成し使い分けられることができるといった扱いやすさ以外にも、従来の平板型のアレイでは取扱いが難しかったタンパク質も溶液中での反応のため容易に扱うことができ、定量性・検出感度も向上しているといった特長があります。

今回のセミナーでは、Bio-Plexサスペンションアレイシステムがフォーカスするサイトカイン、細胞内シグナル因子のリン酸化の同時測定を例に、最近の応用例を中心に紹介します。

◆ 座長  
露崎 龍也（日本バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社  
ライフサイエンス事業本部）

◆ 演者  
**Jim Torrence**  
(Protein Function Division, Bio-Rad Laboratories Inc.)

共催  
日本薬学会第125年会  
日本バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

**BIO-RAD**